

顔 The Face

歯科助手の社会的地位向上を目指す

澤泉仲美子

(一社)日本歯科プロアシスタント協会代表理事



歯科助手教育に尽力し、歯科業界に貢献したい

歯科助手教育に特化し、全国各地で精力的に活動を行う澤泉仲美子氏(株)オフィスウエーブ代表取締役社長)。2016年3月、日本歯科プロアシスタント協会の一般社団法人化にともない代表理事に就任した澤泉氏は、歯科助手こそ患者さんと歯科医院の懸け橋になると強調する。本欄では、歯科助手教育にこだわる氏にその想いをうかがった。

澤泉：私自身、社会人1年目を歯科助手としてスタートしてから歯科助手専門学校で教鞭を執り、1,500名の卒業生を輩出するなど、歯科業界人として31年が経過しました。

国家資格を有する歯科医師、歯科衛生士、歯科技工士は患者さんの口腔内と向き合うため、生涯研修を通してその専門性を高めています。歯科助手は国家資格をもたない職種だからこそ、ややもするとプロフェッショナルの意識が低く見られがちです。

私が歯科助手教育に注力している理由の1つは、歯科医療従事者が治療

やメンテナンスなど患者さんの口腔の健康づくりに専念できる環境をつくるためです。超高齢社会の中で口腔ケアの重要性が認識されつつあり、歯科衛生士不足が叫ばれているなか、小規模な歯科医院では、歯科衛生士が受付や事務業務を兼務しているケースは少なくありません。

一方、歯科助手の中には4年制大学卒業業者やホテル勤務経験者など、多種多様な経歴をもつ優秀な人材がたくさんいます。しかし、実際の歯科医院ではその優秀な人材が活かしきれずに業界から去っていく人も数多く見えました。歯科助手の離職率は高く、結婚や出産を機に退職しても復職したいと思えるような職業に成長させるためには、社会的地位の向上が急務です。

そのような背景のもと、歯科助手を必要とする歯科医療従事者の先生方のご協力もあり、私が代表を務めていた日本歯科プロアシスタント協会をこのたび一般社団法人化することができました。今後は、認定資格が取得できる制度や仕組みを構築していきたいと考えていますし、そのための講師の育成にも取り組んでいきたいと思えます。

また、現在は歯科医院に勤務する歯科助手のさらなるボトムアップを図るための教育に取り組んでいます。一般社団法人化したもう1つの目的として、他業種から転職してきた優秀な人材を歯科助手のプロフェッショナルとして育成し、歯科業界に送り出すことができるような組織としての役割も果たしたいと考えています。

患者さんの歯科医療に対するニーズが多様化するなか、臨床現場では患者さんの立場に立ったコミュニケーションスキルが求められています。医療資格を有していない歯科助手だからこそ、患者さんの声に耳を傾け、より質の高い歯科医療サービスの提供に寄与できる人材を育成したいと考えています。

さわいずみ・なみこ

(株)オフィスウエーブ代表取締役。日本歯科プロアシスタントスクール校長。歯科助手の勉強会を主宰するなど、歯科助手の社会的地位向上のために精力的に活動。2016年3月、日本歯科プロアシスタント協会の一般社団法人化にともない代表理事に就任。